

第20回食育推進全国大会第3回徳島県実行委員会・意見概要

1 日 時：令和7年3月24日（月）午後2時から午後3時30分まで

2 場 所：ホテル千秋閣 7階 鳳の間

3 出席者：実行委員26名出席（うち代理出席3名）、4名欠席
アドバイザー3名出席、1名欠席、有識者1名出席
関係課12名出席

4 議事

- 第1号議案：原案どおり承認
- 第2号議案：原案どおり承認
- 第3号議案：原案どおり承認
- 第4号議案：委員からの追加意見を踏まえ企画案の取扱いは事務局一任で承認

5 その他

HP掲載を想定し、各委員等から頂いた意見、提案内容の確認を依頼する。

【各委員、アドバイザーの皆様から頂いた意見・提案】

別紙のとおり

【委員からの御意見】

徳島市・名東郡 PTA 連合会 藤森 監事

- ・ 全体的にどれくらいの来場者が来られるか？
- ・ 各ブースの内容などの P R をどのようにされるか？
 - ⇒ 来場者は大体 2 万人を想定
 - ⇒ 広報については、スケジュールが記載されたチラシを作成し、当日配布分も作成予定

徳島県栄養教諭・学校栄養職員研究会 島田 会長

- ・ 栄養教諭・学校栄養職員研究会は教育委員会と協力して各市町村で実施している食育の資料を展示ブースで展示させてもらう予定
- ・ 全国学校栄養士協会の方でもブース出展があり、そちらにも協力予定
- ・ 全国大会が実施されることを多くの方々に知ってもらわないと来てもらえないため、デジタル化の時代ではあるが、アナログでの啓発も重要とを感じるため、前回は発言したが、給食便りに掲載可能であるので、協力したい。
 - ⇒ 各チラシについても情報を共有するため、給食便りにもぜひ活用いただきたい。
 - ⇒ 栄養教諭学校栄養職員研究会の協力のもと、研修会等でポスターやチラシを配布
 - ⇒ 各学校には、デジタル化も進んでおり、県 HP の QR コードをすべての教員と、市町村教育委員会を通じ、配布し活用いただいている。

徳島県医師会 田山 副会長

- ・ 非常に盛りだくさんの内容となっているため、会場での案内表示が重要とを感じる。
- ・ 現地での誘導をお願いできれば。
- ・ 県医師会の担当は、4 ページのカテゴリー、8 つのカテゴリーの中の健康と食の多様性について取り上げ、32 ページに掲載のセミナーを担当。土曜日、6 月 7 日の土曜日、「どうすることも肥満」、「正しく学ぼう。食物アレルギー」、以上の 2 テーマについて、30 分ずつ、私は、肥満に関して、食物アレルギーは徳島大学の杉本先生が担当し、できるだけわかりやすく、そして有益なものにしたいと考えている。

徳島県歯科医師会 下村 常務理事

- ・ 徳島県歯科医師会は、歯医者さんと知って得するカミングチェックといったテーマで、ブース出展予定。
- ・ カミングチェックは、小学校の学校の授業で使うカミングチェックを実施。
- ・ 噛む回数を数える装置を付けて、小学生を対象に噛む回数で味が変わること、噛むことの大切さについて伝えたいと考えています。
- ・ 可能であれば、他のブースでどのような食べ物を試食できるか等の情報を事前に共有で

できれば、よりおいしく味わっていただける噛み方のアドバイスもできるのでは。

- ・ やはり乳幼児から食べる機能をうまく育てる工夫を伝えたい。
⇒ 各ブース出展や県産食材飲食店マップ等で食品の情報を可能な範囲で共有

事務局（広報について）

- ・ 広報については、1月にはブレ大会も開催し、県内周知や参画いただいた関係者が各自SNSで発信いただく等、協力いただいているが、具体的な実施内容について、HPにアップするとともに、広報についてももしっかり実施していきたい。

徳島県栄養士会 小林会長

- ・ 県栄養士会では、ICチップが入った食品模型、いわゆるフードモデルを使い、自身が食べたものあるいは食べたいものをトレーに取って、専用のセンサーに乗せるだけで栄養価計算ができるシステムを活用し、エネルギー、脂肪量などのチェックを実施。
- ・ 運動量とも合わせることで、自身が食べている内容、状況についてその場で学んで今後につなげていただきたい。
- ・ そのほか、乳幼児にはおやつを取り方とか与え方、中高年の方には、栄養バランス、野菜摂取、高齢者にはフレイル予防といった内容など、各世代での食のポイントについて、来場者の方に提案できるよう準備を進めている。
- ・ 広報面では、栄養士会のHP、所管雑誌等でも実施予定

徳島県調理師会 佐々木会長

- ・ 出展者の駐車場の状況は？
⇒ 出展者1から2台は確保できるよう準備

徳島県食生活改善推進協議会 石本会長

- ・ これまで、長年「野菜を食べよう。350グラム」を推奨してきた経験を踏まえ、「野菜計量チャレンジ350グラム」を実施し、実物の野菜を使った野菜クイズを実施するなど親子で楽しめる企画を検討するとともに、野菜のロスを減らすための調理方法も展示する予定。
- ・ 来場者はシャトルバスをご利用ということで、しっかりとした周知が重要。南部からのアクセスについては？
⇒ 末広道路使用により、南部からも比較的アクセスしやすいマリニピアやイオンモール徳島第2駐車場に無料の臨時駐車場を準備し、会場までの無料のシャトルバスを運行するためぜひ活用いただきたい。周知については、積極的に実施予定。

徳島県消費者協会 吉川 事務局長

- ・ 広報面では、徳島県消費者協会や徳島県消費者交流広場のホームページ、登録者数が9000人いるメールマガジン等を活用し、複数回にわたって広報予定。

徳島県生活協同組合連合会 儀宝 事務局長

- ・ 7つの団体に構成しており、広報においても協力可能。
- ・ 徳島生協では、食品ロスをテーマに出展予定。誰かの笑顔につながるお買い物というテーマで気を付けたら良いポイントや、食育につなげるポイントなど、こどもから子育て世代の方々等に、伝えたい内容を企画。
- ・ 協賛においても、徳島生協において何らかの協力ができればと考えている。
⇒ 協賛の形は様々準備しているため、ぜひご協力いただける形でお願いしたい。

徳島県農業協同組合中央会 宮崎参事

- ・ 以前に提案させていただいたプロスポーツ選手のトークショーは、自身も参加した1月開催のイベントで大変盛況で、取り上げただいたことに改めてお礼。本番においても、プロスポーツ教室を企画いただき、こちらも期待しているところ。
- ・ ブース出展については、JAグループの方から、徳島の女性組織協議会、青年部が出展予定。広報については、JAグループが持つ日本農業新聞において、徳島版、中四国版、それから全国版とございますので、協力可能。今後作成するチラシの配布についても、協力可能。

全国農業協同組合連合会徳島県本部 管理部 有内 次長

- ・ 食文化、地産地消というカテゴリで、徳島といえばすだち。セミナーの中でもすだちをテーマにした内容があり、ぜひともすだちについて知っていただきたいと考えている。
- ・ 具体的には、物販を中心に、来場者の方にすだちに関するものをお持ち帰りいただいたり、購入いただく方向で検討。
- ・ すだちのPRを担う「すだち大使」の改選の時期であるため、「すだち大使」とともに、一緒に盛り上げていければと考えている。
- ・ さらに、県産野菜もPRし、野菜摂取量向上といった点についても啓発したい。

徳島県畜産協会 窪 事務局長

- ・ p36掲載の魅力の体験コンテンツにおいて、農林漁業体験について色々工夫凝らし、組み入れていただき、有難く感じているところ。
- ・ 当協会としても、模擬体験ができる工夫したいと考えている。
- ・ 出展者の中に、畜産関係の団体がいらっしゃるので、出展内容について共有いただけると重複しないよう工夫できるため、可能な範囲で提供いただきたい。

⇒ 事務局から可能な範囲で提供

徳島県漁業協同組合連合会 佐藤 専務理事

- ・ 徳島県漁連は全漁連と連携して、全国の魚プライドフィッシュということで、全国のおいしい魚のPRを予定。加えて、海苔の炙り体験を企画予定。広報等についても、関係先へのチラシ配布について協力したい。

徳島県食品衛生協会 伊丹 会長

- ・ ブースでは、食品衛生、食中毒に関する啓発等を予定。特に手洗いについては、ブラックライトの装置を使用し、菌がどれぐらい残っているかについて、実際に確認いただけるよう準備。また合わせて、食品表示に係る啓発も予定。

徳島県食品工業協会 斎藤 会長

- ・ 協力できることは引き続き協力したい。

徳島県商工会連合会 市原 専務理事

- ・ 計画案を拝見し、2日での終了は、もったいないと感じるぐらい良い企画ができていると感じた次第。だからこそ、しっかりPRもお願いしたい。各町村に商工会事務局を設置しているため、チラシ等の周知に協力可能。
- ・ 特に、アンパンマンショーや、さかなクンのトークショーは、その部分を目当てにいらっしゃる方がいらっしゃるので、シャトルバスの運行間隔への配慮や周知についてお願いしたい。

四国大学 生活科学部 高橋 学部長

- ・ ブースでは、当大学の食育活動の事例やだしの旨味相乗効果についての体験を予定。
 - ・ 啓発物の配布目安や搬入搬出の予定について現時点で分かっているようであれば教えてほしい。
- ⇒ 配布目安は、2万人を想定、判断いただきたい。
- ⇒ ブース出展については別途説明会で詳しく提示予定。

徳島文理大学 石堂 副学長・人間生活学部学部長

- ・ 当大学は、ブース出展、セミナーに協力予定。
 - ・ 本大会は、学生が参加するだけでも勉強になるが、ボランティア等は可能か？
- ⇒ ボランティアについてはぜひ協力をお願いしたい。

徳島県市長会 成谷 事務局長

- ・ 広報が重要。広報についてはHP、広報誌、SNS等を検討されていると理解しているが、アナログ系の方への対応として、新聞、テレビ等のメディアを活用した広報も重要。

徳島県町村会 木下 常務理事

- ・ 2月21日に実施した県内町村長が集まる会議、27日に実施した町村議会議長全員が集まる会議において、事務局のみどり戦略推進課から大会の説明を頂いたところ。
- ・ これからは広報が重要。町村においては広報媒体持っているが、紙媒体についてはかなりの方が目にする機会があるため、締切りは早めではあるが、早めにデータで提供いただけると協力できるため、検討いただきたい。
⇒ ぜひお願いしたい。

中国四国農政局 古畑消費・安全部長

- ・ 農林水産省は主催団体の1つであり、これまでの経験を活かしながらしっかり連携、貢献していきたい。当方は、ブースでは、食品ロス削減をテーマとし、セミナーでは、スポーツと栄養ということに焦点を当て、元プロサッカー選手の講演を予定。

特定非営利活動法人 みずすまし子ども食堂あいちゃん 武田 事務局長

- ・ 当大会の認知度はまだ高くないので、ターゲットを大きく3つに分けてアプローチすることが重要と考える。
- ・ 1つ目は、定期便を活用した海外への発信、外国人労働者への発信、多言語対応等の検討やマルシェに上手くつなぐ工夫が必要。
- ・ 2つ目は、食育に非常に関心の高い層の方たち、すなわち食育関連の方に確実に周知する工夫。
- ・ 3つ目は、あまり関心の高くない層についてしっかり届く広報の工夫が重要。
- ・ また、フードテックで紹介いただく内容を学校現場に取り入れることや、三本松高等学校の取組を県内の高校に広める工夫、こども食堂での食育の推進にも期待。
- ・ 魅力的なブースがたくさん出展されるが、こどもが楽しく食育を学べるように、こども（家族）が参加して楽しむことができるブースが識別できるような表示を工夫して欲しい。
⇒ 海外への周知については、各国の大使館や総領事館等への周知も検討。多言語化対応についても併せて検討予定。
⇒ 会場となるアスティとくしまからマルシェにうまくつなぐ工夫としては、シャトルバスを準備予定。このほかにも、現場での農作業体験、県産食材を活用した飲食店マップ等徳島の食をしっかりと楽しんでもらえるよう準備したコンテンツをしっかりと広報予定。
⇒ 教育委員会として、学校現場への広報については、食育担当の教員が中心となり機会

を捉えて周知を図りたいと考えている。フードテックの件については、給食の実施が市町村になるため、市町村にも情報をしっかりと提供して、食品ロスの削減に向けた食育につながるよう取り組みたい。最後に県内でも小松島西高等学校はじめ素晴らしい特色ある取組を実施しているため、こうした機会を通じてしっかり広げて参りたい。

株式会社 いろどり 横石代表取締役社長

- ・ 昨年12月から地域商社の会長も担っており、知事とともに、国際的な会合や企業訪問の際には、食育推進全国大会についてPRしており、今大会は、様々な方々の協力をいただき、内容も非常にボリューム感が出た形になったと感じている。
- ・ 県外からも参加いただけるよう宿泊についての配慮や来場者にはこの機会に徳島の食材を知ってもらう工夫が重要。個人的には、神田さん、三國さん、柴田さん、世界に誇るお三方がお話いただける内容を、若い世代の皆様ぜひ聞いていただいて、将来に繋がるきっかけになればいいと感じている。地域商社としても全面的に協力、応援したい。
⇒ 宿泊については専用HPで案内中

NPO法人 まちの食農教育 樋口 代表理事

- ・ 資料を拝見し、ますます楽しみになってきているところ。
- ・ 地域に根ざした食育の場国際連盟齋藤氏とともに立ち上げ、なるべくこの有意義な機会を次に繋げていけるものにできないか検討しており、神山町においても、この機会を活用した関連イベントの実施について検討しているところ。
- ・ 今大会では、8つのカテゴリーが示され、カテゴリー別にブースが配置され、今後団体さん同士での情報共有や情報交換の機会につなげることができ、次につながると感じている。
- ・ また、学校給食のコンテンツで関わる予定であるが、食文化・地産地消以外にも当てはまるカテゴリーがあると感じるので、後ほど相談させていただきたい。
- ・ 魅力的な体験型のツアーの対象者数が少ないと感じるが事前申込制となるのか。
- ・ 各ブースでどんなことをしているなどが区別できるアイコン表示などを実施し、案内の際に提示するなど、特にお子さん連れの方は限られた時間で来られると思うので、適切な案内があると、計画を立てやすいと感じる。
⇒ ツアー募集については受入先の体制に配慮し対象者数を決定し、事前申込制で対応
⇒ 各ブースの広報については、当日チラシへの工夫も含め今後検討

J I E N 齋藤 共同代表

- ・ 大会アドバイザーとして国際会議を担当。英国、イタリア、韓国の3か国からの御登壇を予定。簡単にご紹介しますと、先ほどからお話が出ているフードテックという分野においては非常に世界的な権威であるジョニードレイン博士。ココアを使わないチョコレート

トの開発や様々な未利用資源を活用した先進的な取組をなされている方として、世界的に知られている方。次にルチアーノトーナ氏に関しましては、地域に根差した食育をはじめとして、世界の料理人の方への食育という意味においても非常に評価されている方。

3人目のキム・ヒョンソク氏は、スローフードや高等教育機関における食育の実践者、スペインや欧州でも御活躍されておられる方。こうした方々が、6月7日の1時間だけ御登壇されるということでは非常にもったいないと感じており、実際には6月4日ぐらいから県内を様々周遊され、様々繋がり、そして色々な活動へ寄与したいと考えているため、ぜひ、教育現場や食品加工、それから漁業、農業、畜産業、様々な現場に、このような方々に訪問いただき、色々な波及効果を生み出していきたいと考えておりますので、ぜひ受け入れ等の御協力をお願いしたい。

- ・ また、この大会前後はもちろん、来年、再来年までの波及効果を見据えた上で国際連盟を設立し、主催者となって様々な発信も少しずつ始めているところであり、様々な機会を皆様方と一緒に創出させていただきたい。